

ばんげい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径

2009年

11月号
No.13

今月の花/ヤツデ
花ことは/分別・親しみ・健康



今月の歳時記

紅葉狩

紅葉と書いて「もみじ」と読みます。山野を訪ねて、モミジやカエデなどの木々の葉が赤、黄、褐色に色づいた様子を鑑賞することをいいます。紅葉前は山頂から麓に下りてきます。北から南に移っていきます。「狩」とは、鑑賞するという意味のほかに、松茸狩のように採集する場合にもいいます。



北 俊夫先生
国士館大学教授

今月のテーマ 表現活動と表現力

- 表現力は、一人一人の「生きる力」を形づくる重要な要素だといえます。表現力は具体的かつ多様な表現活動をとおして育てられます。
- 表現活動は子ども自身の能動的な活動であり、それは教師の適切な指導によってより充実したものになります。

「生きる力」としての表現力

「表現力」を育成することが、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な能力の一つとして、一層重視されています。自分の考えや思いを豊かに表現する力は、教師が教え込んでも身につけません。子ども自身が自らの意図によって、表現活動に主体的に取り組むことによって育まれていくものです。

表現力とは対象に自分を伝える能力です。そこでは言語（言葉）という手段のほかに、映像や身体も活用されます。表現力を育てる場は、国語科、音楽科、図画工作科、体育科といった特定の教科だけでなく、社会科や算数科、理科などあらゆる教科等の指導に位置づけることができます。

表現は目に見える形に表す「作品づくり」だけではありません。日常生活において、表情やふるまい、発言やつぶやきとして表現されます。「表現することは生きていることだ」と言えます。さまざまな人たちと共に生きていくためには、豊かな表現力を身につけることが求められます。子どもたちに「生きる力」としての表現力を育成

することが重要な課題になっています。

多様な表現活動をとおして

学校での授業においてもっとも日常的な表現活動は、言語という手段を活用した活動、すなわち言語活動です。これは、文章に書く、話をするといった表現活動です。言語をとおして表現力やコミュニケーション能力を育てることはとても大切なことです。

このほかに、非言語系の表現活動があります。体全体を使って身体表現する。歌を歌ったり楽器を演奏したりする。図表やグラフ、地図などに表す。絵画や造形による表現など、さまざまな手段で表現する活動があります。身ぶりや手ぶり、表情、アイコンタクトなども表現活動の一つです。

日々の授業において、教科や教材の特質を踏まえた多様な表現活動を組み合わせ、子どもたちに繰り返し体験させることが大切です。こうした活動をとおしてTPO（時と場所と場合）に応じた適切で豊かな表現力が育てられていくものと考えます。

表現力を育てるポイント

子どもたちに表現力を育てるためには、

教師がなんらかの手だてをとることが必要です。ただ「表現しなさい」だけでは、子どもたちは何をどう表現したらよいのかわからず、表現活動は成立しません。

例えば次のような教師の手だてが考えられます。

- ・目的やテーマを明確にします。何について表現するのか、課題意識をしっかりとさせます。
- ・表現することへの意思や意欲を高めます。子ども自身がその気にならなければ、表現活動は成立しません。
- ・表現する内容を身につけさせます。表現することは活動です。表現する中身があって活動がうながされます。
- ・表現する方法（スキル）を指導します。言語による表現活動の場合には書き方や話し方といった言語技術です。技術が稚拙だと、内容を上手に表現し伝えることができません。
- ・表現する対象や相手を明確にします。相手を意識することによって、意欲が高まり、表現方法も工夫します。

このほかに、表現した方法や内容に対して、よいところを褒めたり、課題を指摘したりして評価します。子どもにも自己評価、相互評価させます。

いま学校のさまざまな場面で、コーディネーターの設置が話題になっています。総合的な学習の時間においてもその必要性が言われています。

総合的な学習の時間は、多くの場合地域の素材を教材化したり、人材の協力を得ながら展開されています。地域の人たちや施設、機関などとの連絡を個々の教師が行うと、どうしても重複したりして煩雑になったりします。学校としての窓口を一つにして連絡・調整する人が必要になります。これが総合的な学習の時間のコーディネーターです。

総合的な学習の時間は学校として組織的、統一的に取り組むことが求められます。コーディネーターは地域との間でコーディネートするだけでなく、校内では指導計画を学年間で調整するなど、学校としての総合的な学習の時間を推進する役割も担います。

こうしたことから、各学校では総合的な学習の時間のコーディネーター役を校務分掌に位置づけ、その人を核にして総合的な学習の時間の一層の充実を図ることが求められています。



授業は、「目標と内容と方法」の三つの要素から成り立っています。これらの関係を食生活にたとえて説明しましょう。食事をとる目標は、健康で丈夫な体をつくることです。そのために毎日バランスのある栄養と適量のカロリーを摂ります。これが内容に当たります。方法とは、そのための食事（メニュー）や食べる順序や方法、箸などの道具、食事の場所などを指します。

授業で活用される教材とは、内容である「栄養とカロリー」を摂取するための朝・昼・晩の「メニュー」に当たります。学習内容と教材との混同が見られますが、両者には明らかな違いがあります。教材（メニュー）

は学校や学級によって変わることがあります。しかし、学習内容（栄養とカロリー）は変わることはありません。

各教科等の学習内容は、それぞれの学習指導要領に定められています。それらを学ぶための教材は、教科書や副読本、資料集など複数あり、選択することができます。教師が教材を開発し自作することもできます。



教育キーワード 体力・運動能力調査

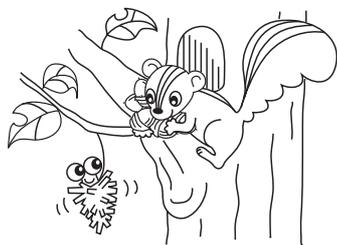
正式には「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」といいます。子どもたちの体力が低下している状況から、全国的な子どもの体力や運動習慣、生活習慣、食習慣などの状況を把握・分析し、体育や健康に関する指導に役立てることを目的に、文部科学省が平成20年度から実施しているものです。

小学校では第5学年を対象に、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、

20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの8種目を実施しています。これ以外に、運動習慣、生活習慣、食習慣などに関する質問紙調査があります。学校に対しては、体育の指導及び特別活動等に関する質問紙調査が実施されています。

年明けに報告書が出される予定ですが、調査結果をこれからの教育指導にどう反映させるかが課題です。

学級通信に使える今月のイラスト



冬じたく



11月

編集後記

今月号から、少し紙面のレイアウトが変わったことにお気づきになられましたでしょうか。「教育の小径」は2年目を迎えました。新設の「今月の歳時記」は季節を楽しめるコーナーです。今後ともよろしく願いいたします。(K記)

Information (PR)



新刊

若い先生に伝えたい!
授業のヒント60
授業相談Q&A

- 著者 北 俊夫
- 規格 B5判152ページ
- 定価 1,890円 (本体1,800円+税)
- 発行 文溪堂

わが国の学校には、先輩の教師たちが築き上げた優れた授業の技術がたくさんあります。子どもを育てるノウハウの蓄積があります。本書は、学校現場の現状や課題を踏まえ、若い先生方にそれらの技術やノウハウを伝えて、授業のさらなる充実と子どもたちの成長を願って企画・出版されたものです。